

第7章 結び

『現代人の心はためらっている。文芸復興以来の社会の進化が伝統的環境を打ち砕き、いまや人間はこの上なく矛盾した諸学説の間に右往左往し、救いようもなくなっている。感情も信仰も哲学的真理も取るに足りぬものだ、と世界は人間にほのめかす。しかしこの人間は、それらの問題こそ重要なのだという確かな直感を心の奥底に保持している。彼は愛の渇きを、精神的孤独を、死の不安を、悪の不可解さを、神の神秘を、もう語らない。彼はそれを抑圧する。しかしなおもそれらに付きまとわれている。』

スイスの人格医学者であるポール・トゥルニエ博士は『調和なき世界の間人』(ヨルダン社)の中で、こう述べている。現代人は意識の抑圧に苦しんでいるのである。

素直に表現できないことは、自分自身にも素直に関われないことになる。現代社会では、人は誰かに抑圧されているのではなく、自分が自分自身の意識を抑圧して苦しんでいるのである。

木村仁自身が10代から意識の抑圧に苦しんできた。人間関係に苦しみ、才能もない、資金もない、と自分を卑下していた。自分自身との戦いであった。しかし、30歳からは、自己の良心に素直にしたがって生きようと決意した。40歳から、具体的な心の共同体の実現に動き出した。子どもも大人も素直に表現できる精神環境の創造の実践研究を重ねてきたのである。

「札幌トモエ幼稚園」という名称の由来は、『窓ぎわのトットちゃん』で紹介され、黒柳徹子さんが通った学校として知られる「トモエ学園」からである。小林宗作校長は、昭和初期のたいへんな時代にあって、子どもたちひとりひとりの個性を重んじ、子どもたちの可能性を信頼して、教育に情熱を傾けていた。

『窓ぎわのトットちゃん』が何百万部も読まれ、人々はトモエ学園の教育実践に感動した。しかし、現実の教育界はますます混迷の中にある。人生の後輩である我々には、トモエ学園の理想を土台として、さらに実践研究を進め広げて歩いていく責任がある。1986年に新設した学園にあえて「札幌トモエ」と名付けたのは、そのためである。全国各地にトモエの実践研究が広がり、ひとりでも多くの人が人間の素晴らしさを発見できることを願う。

多くの人々の信頼と協力によって、ここまで実践研究を重ねてくることができた。感謝である。しかし、この実践研究は、未だ道半ばである。不十分なところがまだまだある。社会の状況はますます悪化の道をたどり、母子をめぐる精神環境の劣悪化はさらに加速するであろう。個が個として尊重され、人間が人間らしく生きることのできる生活環境の回復を求めて、さらに前進を続けたいと考える。

この報告書の内容は、あくまでも現段階での実践研究の中間報告である。今後引き続き実践研究を深め、後日あらためて詳細な報告を提出して、人間教育の発展に寄与したいと願っている。

この実践研究を進めるにあたって、次の方々には直接面談していただき、多くの影響を受けた。感謝である。(敬称略・肩書きは当時のもの)

* 三浦綾子(作家)

* 高見沢順子(劇作家)

* 黒柳朝(エッセイスト)

* 白井常(心理学・東京女子大学教授)

- * 荘司雅子（幼児教育研究・広島大学教授）
- * 平井信義（児童精神医学・大妻女子大学教授）
- * 三浦雄一郎（スポーツ学・プロスキーヤー）
- * 中川志郎（動物行動学・上野動物園園長）
- * 森上史朗（教育学・文部省調査官）
- * 三宅和夫（教育学・北海道大学教授）
- * 宮城まり子（障害児教育・ねむの木学園園長）
- * 福井達雨（障害児教育・止揚学園園長）
- * 土橋信男（教育学・北星学園大学学長）
- * 尾谷正孝（社会心理学・札幌国際大学教授）
- * 中野茂（発達心理学・北海道医療大学教授）
- * 渡部保夫（法律学・北海道大学教授）
- * 横川和夫（共同通信社論説編集委員）
- * 戸田一夫（北海道電力相談役）
- * 汐見稔幸（人間教育学・東京大学大学院教授）
- * 渡辺久子（乳幼児精神医学・慶應義塾大学医学部講師）
- * 澤口俊之（脳生理学・北海道大学医学部教授）
- * 柏葉武（脳神経外科・医師）
- * 多くの胎乳幼児・母親・家族
- * トモエのスタッフ・在園・卒園家族
- * 共鳴して共に歩んでくれた人々

次の人たちには、著書によって大きな影響を受けた。

- * ポール・トゥルニエ（人格医学・精神医学）
- * ミヒャエル・エンデ（児童文学）
- * レイチェル・カーソン（海洋生物学）
- * アルバート・アインシュタイン（理論物理学）
- * アリス・ミラー（精神医学者）

札幌トモエ幼稚園の実践研究の詳細については、以下の資料も直接参照していただきたい。

- * 札幌トモエ幼稚園ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/tomoe/forest/>

* 出版物

- 『人が好きになる子育て』（木村仁）一光社・1984年
- 『黒ひげ園長のいきいきファミリー教育』491アヴァン社・1985年
- 『写真集・いいものみつけた』（トモエ幼稚園自主出版発起人会）・1999年
- 『創造の森の仲間たち』（木村仁）樹心社・2001年
- 『お母さんが輝く子育てのすすめ』（木村仁）樹心社・2003年

* 主な映像（30分番組のみ）

- 「親の目子の目」「いけません」からの解放（民間教育放送協会）1985年10月23日・全国放送
- 「北海道TEN」ピニールハウスの園児達（NHK札幌放送局）1986年9月・全道放送

「生きる×2」森の園長は子どもたちから学ぶ(民間教育放送協会)2005年6月5日・全国放送

「無頼放談」(HBCテレビ)2005年7月24日・全道放送

*主な冊子

「ねえ、自分のこと、愛してる？」トモエだより集(1)・1986～1995

「ドラマチックな日々」トモエだより集(2)・1996～1999

「トモエの魔法」トモエだより集(3)・1999～2005

「人間物語」人間環境学会機関誌(1号-12号)1990年 1994年発行

「人間と教育」毎日新聞社懸賞応募論文・1992年

「ちいさいなかま」草土社・2003年5月号

「親と子の主体形成を支える保育共同体の構築 - 子育て支援の再検討 - 」(明星大学通信制大学院
修士論文・2005年3月修了生・宮武大和)

「親の育ちと幼稚園 - 親と子どもと保育者の育ち合う関係の検討 」(早稲田大学第二文学部卒業
論文・2005年3月卒業生・渥美尚子)